



共に学ぶ

学校支援ボランティアセンター (SSVC)

第37号 (年2回発行)

狭山市学校支援ボランティアセンター
＜事務所＞

狭山市狭山台1-21

狭山元気プラザ内A棟3F

☎/Fax 04-2927-1395

E-mail: sayama-ssvc@bd.wakwak.com

電話受付: 月・水・金曜日午後1時～4時迄

地域とともにある学校づくり

「不登校の増加は災害と同じ重要な問題と感じていた。」と、ある教育誌の文章の中にありました。実際、学校に目を向けると、不登校はもちろん、学力や体力の向上、働き方改革の推進など、多種多様な課題や問題が山積しています。課題等の解決に向けて、学校と連携を図りながら尽力していますが、困難な状況にあります。このような中、狭山市教育委員会では令和7年度をもって全小中学校に学校運営協議会制度の導入を完了し「地域とともにある学校づくり」を推進してまいります。

子供たちの学びを支えるためには、関係者が同じ方向を向いて連携していくことが不可欠であります。子供たちに関わる様々な課題等を解決するため、今こそ、全ては子供たちの健やかな成長を共通の目的とし、学校・家庭・地域が力を一つにして取り組んでいくときではないでしょうか。

支援活動への参加者確保に向けて

SSVCの2024年度の支援時間は約7,500時間となり、コロナ禍前の時間数の81%と、いわゆるV字回復の形となりましたが、その内容は以前とはだいぶ異なっています。2020年3月に始まった全国での休校措置が解除された後も感染予防が最優先される中で、小学校2年生の九九暗唱の支援だけは途切れさせたくない、との学校と支援者双方の熱意でビニールカーテン越しに暗唱を聞く、という工夫をしたり、生徒たちとの接触を避けて別室で宿題の丸付けや自主学習ノートのチェックを行うなどの新しい形の支援が始まりました。そのお陰でコロナ禍の真っ最中だった2020年度も支援時間はゼロにはなりませんでした。

教室に入っただけの支援も徐々に復活していますが、昨年度の実績では小中学校共に50%以上が「新しい形の

狭山市教育委員会 学校教育部長 宇佐見 昌義

当然、山積している課題等が、簡単に解決していくとは考えておりません。しかし、少しでも改善の方向に向けていくには、関係者が互いに知恵を出し合いながら、できることから、一つ一つ取り組んでいくこと

が、遠回りのように思えても一番の近道になると捉えております。その意味からも狭山市学校支援ボランティアセンターの皆様の、長きにわたり地道に学校支援をしていただいている事実と実績に、心からの信頼を寄せるとともに感謝と敬意を申し上げます。

今後も、未来の宝である「さやまっ子」の健全な成長のために、皆様方の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。



SSVC 事務局長 山田 恵一

支援」となっており、この中には、いくつかの中学校での別室登校生徒の自習の見守りも含まれています。

その一方で支援に参加した人の数は198名で、コロナ禍前の64%程度に減少しています。支援活動が制限されていた間に体調を崩したり、生活習慣が変わってしまったなどの理由で参加できない人が多くなる一方で、新しく登録される方が増えないことが大きな課題となっています。私たちの活動を広くPRして新しく参加して下さる方を集める努力を継続すると共に、これから本格化する地域学校協働活動(SCSC)との連携を強化することで、SSVCには登録されていない地域の方々と協力しあう活動も模索して行きたいと考えています。

校長先生 こんにちは 36

伝統と信頼を育む学び舎 開校51年目を迎えて 狭山市立狭山台中学校 校長 早川 智也

日頃より、SSVCの皆様をはじめ地域の方々には本校の教育活動に多大なるご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

開校51年目を迎えた本校は、「信頼・努力・協同」の校訓のもと、地域に根ざした教育活動を展開しております。私たちが掲げる学校教育目標は「学び合う生徒」「考えて行動できる生徒」「高め合う生徒」の育成です。日々の教育活動を通じて、「夢に向かって自ら学ぶ、心豊かでたくましい生徒」の実現を目指しています。

本校の特色である「狭山台中あたり前十か条（①明るいあいさつ元気な返事②人の話をしっかり聞く③思いやりの心④時間を守る⑤正しい服装⑥整理整頓⑦正しい言葉遣い⑧自分の役割を果たす⑨無言清掃（目黙

清掃）⑩時と場合に応じた行動）」は、基本的な生活習慣や規範意識を身につけるための指針となっています。特に「あいさつ」と「無言清掃」に重点を置き、生徒の人間性と自律性を育てています。校内だけでなく、地域の方々への挨拶も積極的に行うよう指導しております。もし生徒からの挨拶がなかった際には、ぜひ地域の方から声をかけていただけますと幸いです。このような地域全体での見守りが、生徒たちの成長を支える大きな力となります。

地域の皆様に支えられ、共に歩んできた51年。これからも地域との連携を深めながら、生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出し、未来を切り拓く力を育む学校であり続けたいと考えております。今後とも本校の教育活動へのご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



全国的にも珍しいと評価の学校支援活動の由来を探る ⑧

～～今までを振り返り、エピソードや今後の展望などシリーズで掲載中～

当SSVCは、学校支援活動を開始して既に20年を超えています。当時この活動は、全国的にも稀であったようで、とても珍しい活動のようでした。この活動は、ボランティアの持つ知識や経験を活かし地域の子供たちの学力を支援し地域の人々をつなぐ架け橋の役目でもありました。

此の原点は、市民大学同窓会が2002年9月に産声をあげて、会員の活動の場づくりに意義ある社会参加となる事業はなにかと試行錯誤をしておりました。高齢者のマンパワーを活かしやすいことは、何かと探っているうちに一つの方向が見えてきたと先輩が語っておりました。なぜこの学校支援が世間に話題を呈したか？そのポイントを挙げると、①センターを設置し、情報の収集（企画検討）、配信機能を整えたこと。②学習支援に特化したこと③市内全校にCNを配置したこと。④市民大学（シニア）と連携して人材確保と育成をしたこと。

尚、このセンターの活動が注目を浴びた項目を手前味噌ですが列挙してみますと「SSVCは、狭山市の宝である」と「共に学ぶ」のトップページに執筆頂いた

教育部長、市内の先生にアンケートをお願いしましたが「SSVCの活動は、学校教育に不



March 24, 2008 学校支援コーディネーター会議にて

可欠である」大いに効果ありと絶賛の評価を頂きました。また全国版の「朝日賞」の選考理由は、「学校支援の仕組みを整え、地域で支えられている点、他地域のモデルとなる」と受賞した盾に刻まれておりました。これらのメッセージは、当メンバーにとって大きな励みとなり、また講演の良い材料にと使わせてもらいましたが広報活動の良いポイントとなり感謝しております。

県内外より、視察、問合せ、講師依頼もたくさんいただきましたが、文科省の講堂から全国に情報発信、また県教育委員会、全国中学校校長会発行の教育機関誌への掲載も多々あり嬉しい悲鳴でした。

このSSVCの展開は、SDGsの観点を基に進化を続け世間からモデルと注目されるような存在を継続していきたいですね。

「誰一人取り残されないための 狭山市のセーフティネットに」

——狭山市立教育センター・坂木センター所長に聞く

狭山市立教育センターは、「誰一人取り残されないための 狭山市のセーフティネットに」を掲げ、困難を抱える子供たちを支え、学校現場を後押しする重要な役割を担っています。坂木センター所長へのインタビューを通して、その活動内容を紹介します。

1. 狭山市立教育センターの役割とビジョン

教育センターは、子供たちにとっての「セーフティネット」として機能することを目指しています。具体的には、学校や家庭から孤立しそうな子供たちを支える「教育支援センター機能」と、教職員を支援し、学校全体の教育力を向上させる「研究研修機関機能」の二つの役割を担っています。これらの機能は、最終的にすべて「子供のため」という共通の目的につながっていきます。

2. 不登校児童生徒への支援

近年、不登校児童生徒が増加傾向にあり、教育センターでは不登校支援に力を入れています。その一つとして、茶レンジルーム「ひだまり」があります。以前の適応指導教室「けやき」から名称を変更し、不登校児童生徒が安心して過ごせる居場所として設置しています。

「ひだまり」では、学校復帰も含めた社会的自立を視野に入れて支援を行っており、自学自習形式での学習支援や活動支援が提供されています。「ひだまり」での活動は、指導要録上で出席として認められ、学校外での学びが適切に評価される体制が整いつつあります。

教育センターでは、来所や電話による相談を含めると年間約1900件の教育相談に対応しており、不登校についての相談が多数を占めています。その他にもスクールソーシャルワーカー（SSW）による家庭訪問など、アウトリーチ型の支援も積極的に実施し、来所が難しい子供への支援も行っています。

また、不登校を防ぐ支援の一環として、学校内に設置されたスペシャルサポートルーム（SSR）も重要な役割を果たしています。SSRは、教室に入ることが難しい子供たちが、学校内で安心して過ごせる居場所で、ここ数年で設置している学校が増えてきました。

子供たちが学校とのつながりを維持し、不登校へ至ることを防ぐ効果が期待できます。SSRの運営には、教職員を中心として地域ボランティアが関わっているところもあり、学校全体で支援体制を構築しています。

3. ボランティアに望むこと

教育現場の多層的な支援体制を支える上で、地域のボランティアの協力は重要です。教員の多忙化が深刻な学校現場において、ボランティアによる支援の必要性は増えています。ボランティアには、高度な専門知識や指導力というより、「手が足りない場所を支える」ことや「辛いところに手が届く」支援が求められています。具体的には、小学校での学習や生活の支援、中学校での学習支援、職員室等での事務作業支援など、多岐にわたる支援が期待されています。学校における活動はすべて子供たちにつながる教育活動であり、そこに軽重はありません。ボランティアの支援によって、教員が本来の教育活動に集中できるようになり、子供たちの小さなSOSに気づける余裕が生まれれば、結果として教育の質は高まります。

坂木センター所長は、ボランティアに対して「学校のために力を貸したい、という気持ちで取り組んでいただき、教職員からの感謝の言葉がボランティアのやりがいにつながるような関係性が理想的である」と述べられています。学校、ボランティア、保護者など、多様な関係者が連携し、「子供の幸せ」という共通の目的に向かって協力することが、より質の高い教育と子供の成長につながると。そのためにも、お互いの状況を理解し合い、協力体制を築くための意見交換や交流の機会も必要であるとのことでした。

この記事は、坂木センター所長にインタビューをお願いし「共に学ぶ」広報班で編集したものです。狭山市立教育センターの取り組みについて詳細を伺う貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

（文責 編集担当 木村陽一）

支援いろいろ 御狩場小学校

御狩場小学校コーディネーター 菅原秀子

御狩場小は学校応援団とSSVCにより毎週木曜日、全学年朝自習の丸付けを行っています。1年生は2学期からです。2年生は掛け算九九の暗唱ですが声を出しながら何回も言い、繰り返し聞き取るようにしています。その他、家庭科のミシン、調理実習、昔の遊び、書き初め等です。

また、校内の清掃も児童としています。1年生から6年生までの縦割り班です。学校を綺麗にして気持ち良い学校生活を送ってほしいと思います。

3年生は毎年「お茶摘み」体験をします、自分たちの住んでいる町を知ろう。

南入曽の茶畑まで30分程歩いて行きます。お茶の葉を摘んで、茶葉を蒸して、手もみをして乾燥します。最後に自分達で作ったお茶を、美味しいと言っておかわりをして飲んでいきます。地域のボランティアの協力を得ながら学校支援を行っています。



SSVC 活動報告

第18回SSVC 諮問会議報告

3月1日、第18回SSVC 諮問会議が富士見集会所で開催されました。会議では、令和6年度の事業実績と令和7年度の計画が報告され参加した学校関係者や地域団体、学識経験者との間で活発な意見交換が行われました。

支援活動の中心を担う高齢世代の減少が課題として挙げられる中、学校現場からは「負担を感じたことはない」「信頼している」といったSSVCへの感謝と期待の声が上がった。また、放課後活動や地域行事、防災訓練などを通じた子どもたちの地域参加が自己肯定感の向上に寄与するとの意見も共有されました。

今後は、若い世代への参加呼びかけや、学校HPへのリンク設定など、広報活動の工夫も求められる。地域と学校をつなぐ支援の在り方を見つめ直す、意義深い会議となりました。

は、学習支援員養成セミナーの実施と次年度の自主開講計画、第18回諮問会議での多様な提言が共有されました。また、各ブロックの支援活動報告からは、学校ごとの課題や地域連携の様子が具体的に示され、支援の広がりや多様性が浮かび上がりました。最後に退任・就任コーディネーターの紹介があり、市民大学や同窓会による担い手育成の取り組みにも期待が寄せられました。

昨年度の支援実績

2024年度 支援実績

	1学期	夏休み	2学期	3学期	合計
2022年度	1350時間 小学校8校 中学校6校	183時間 小学校1校 中学校2校	2261時間 小学校9校 中学校7校	1555時間 小学校10校 中学校7校	5349時間 小学校12校 中学校7校
2023年度	1774時間 小学校8校 中学校7校	296時間 小学校1校 中学校3校	2739時間 小学校11校 中学校6校	1613時間 小学校8校 中学校6校	6421時間 小学校12校 中学校7校
2024年度	1787時間 小学校10校 中学校7校	339時間 小学校4校 中学校3校	3394時間 小学校13校 中学校7校	2154時間 小学校12校 中学校7校	7674時間 小学校14校 中学校8校

2024年度支援内容

小学校（非対面）家庭学習ノート丸付け

（対面）算数、理科、家庭科、読み聞かせ、地元の史跡逸話紹介、マーチングバンド練習
保護者会時児童見守り、外国人児童支援、茶摘み、田んぼプール、田植え

中学校（非対面）自主学習ノート点検

（対面）数学、英語、家庭科、教室に入りにくい生徒対応、キャリア教育支援
放課後自習支援

2024年第2回全体コーディネーター会議報告

2025年3月17日、狭山元気プラザで2024年度第2回全体コーディネーター会議が開催されました。森田クリニックの森田鉄平医師による「認知症」に関する講演では、症状や予防、子どもへの支援の取り組みも紹介され、参加者は医療と教育支援の接点を改めて実感しました。続くSSVCの活動報告で



SSVC ホームページ